## 邪馬台国時代の千曲川流域と周辺世界

石川 日出志 (明治大学)

【要旨】 邪馬台国時代は、西日本で急速に大陸の政権・政治勢力と交流・連携を強めながら、 急速に倭人社会の政治的統合が進んだ. ちょうどその頃、日本海側の各地の有力者が、物資の 交易を通じて広域連携を仲介し、その連携は北陸を経て、千曲川流域にも及んでいる. 千曲川 流域の弥生時代後期の諸現象は、こうした西日本の動向を視界に入れて初めて理解できる.

### 1. 邪馬台国の時代とは?

- (1) **邪馬台国所在地論争【**資料1・2】
  - ①. 魏志倭人伝に見える「邪馬台国」=卑弥呼の時代(2世紀末~3世紀前半)【資料2】 倭人29国のうちの一つ. 卑弥呼が王の女王国で、倭人28国を統属. 倭国内の1国. 卑弥呼=「桓霊間、倭国大乱」(後漢書)ののち共立(AD180年代末頃). 景初3年(239年)に魏に遣使し「親魏倭王」の称号得る. 248年頃死す.
  - ②. 邪馬台国所在地論争【資料1】九州説と畿内説: 江戸時代から現在まで論争が続く.考古学界=畿内説、古代史ファン=九州説、が多数派.
  - ③. 重要なのは、九州/畿内いずれにせよ、倭人社会が急速に「国」形成に進み、大陸の強大な政権と政治交渉する状況にある時代だ、ということ.
- (2) 邪馬台国時代の考古学: 1~3世紀の考古学
  - ①. 伊都国域の3代にわたる「王墓」【資料3】
     BC1世紀=三雲南小路 → AD1世紀=井原鑓溝 → AD2世紀=平原
     魏志倭人伝「世々王あるも、みな女王国に統属す」
  - ②. AD57年の奴国による漢帝国光武帝への遣使

「漢委奴國王」金印【資料4】

「光武賜うに印綬を以てす」(後漢書),107年には「倭国」と「王帥升等」.

- ③. 2世紀後半に起こった有力地域の首長どうしの広域連携【資料5】 出雲と吉備の最有力者が連携. 出雲とは、丹後・北陸も連携.
- ④. 3世紀後半には九州から東日本の一部まで政治的連携が進む. 各地の最有力者は前方後円墳を築造【資料6】.

\*邪馬台国の時代は、倭人の社会から倭国が形成される重要な過程.

### 2. 同時代の千曲川流域と周辺世界

- (1) 弥生時代後期の千曲川流域
  - ①. 中期後半から後期前半にかけて遺跡数・遺物量の激減≒劇的な人口減.
  - ②. 後期中頃~後半にふたたび遺跡数増加し、大規模集落も出現. 長野市篠ノ井遺跡群の大規模な環濠集落【資料7】 墓域に見える社会の階層化

環濠集落≒防御性を意図して構築された集落 中野市がまん淵遺跡=高地性集落:丘陵上に設けられた防御集落

③、大陸系文物が千曲川流域にもたらされる、【資料8・9】

木島平村根塚遺跡の渦巻飾付鉄剣(全長 74 cm)

長野市浅川端遺跡の馬形帯鉤

上田市上田原遺跡の鉄矛.

佐久市北一本柳遺跡の板状鉄斧2例

### (2) なぜこのような集落や遺物が千曲川流域に出てくるのか?

①. 環濠集落と高地性集落【資料10】

北陸では、弥生後期になって高地性集落が広がる=社会的緊張の広がり. 高田平野の高地性集落

- ②. 根塚遺跡の渦巻飾付鉄剣を読み解く 朝鮮半島東南部の加耶製品で、特注品の可能性が高い.
- ③. 朝鮮半島系文物の広範な流通. 【資料11】 特に日本海側に広く流通.
- ④. 武器を副葬する風習も朝鮮半島からもたらされた習俗.

### 3. 結論

邪馬台国時代は、西日本で急速に大陸の政権・政治勢力と交流・連携を強めながら、急速に倭人社会の政治的統合が進められた。ちょうどその頃、日本海側の各地の有力者が、物資の交易を通じて広域連携を仲介し、その連携は北陸を経て、千曲川流域にも及んだ。千曲川流域の弥生時代後期の諸現象は、こうした西日本の動向を視界に入れて初めて理解できるものだと考えます。

### 【参考文献】

- ・石川日出志 2010『農耕社会の成立』岩波新書
- ・石原道博(編訳)1985『新訂魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』岩波文庫(青 401-1) (和田清・石原道博編訳 1951 『魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』岩波文庫)
- ・藤堂明保・竹田晃・影山輝國(全訳注)1985『倭国伝―中国正史に描かれた日本―』学習研究社(2010講 談社文庫)
- ・岡村秀典 1999 『三角縁神獣鏡の時代』歴史文化ライブラリー66, 吉川弘文館. 〔必見〕
- ・渡邉義浩2012『魏志倭人伝の謎を解く』中公新書2164

### 【付図出典】

1頁: 渡邉義浩 2012『魏志倭人伝の謎を解く』中公新書 2164

2頁: 石原道博(編訳)1985『新訂魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』岩波文庫(青 401-1)

3頁上: 柳田康雄(編)1985『三雲遺跡南小路地区編』福岡県教育委員会

中: 森本六爾(編)1930『青柳種信・鹿島九平太著 柳園古器畧考・鉾之記』東西文化社 梅原末治1931「筑前国井原発見鏡片の復元」『史林』第16巻第3号(梅原1940『日本考古 学論攷』弘文堂書房)

下: 原田大六著・平原弥生古墳調査報告書編集委員会 (編) 1991 『平原弥生古墳―大日孁貴の 墓』 葦書房

4頁A・B: 大塚紀宜 2008「中国古代印章に見られる駝鈕・馬鈕の形態について」『福岡市博物館 研究紀要』第 18 号

C: 鈴木 勉 2010 『「漢委奴國王」金印·誕生時空論』雄山閣出版

右下: 上掲·石原道博 1985

5頁上: 近藤義郎(編)1992『楯築弥生墳丘墓の研究』楯築刊行会

下: 島根大学考古学研究室 (編・発行) 1992『山陰地方における弥生墳丘墓の研究』

6頁上: 新納泉・北條芳隆 1992「V古墳時代 8 祭祀」『図解・日本の人類遺跡』東京大学出版会

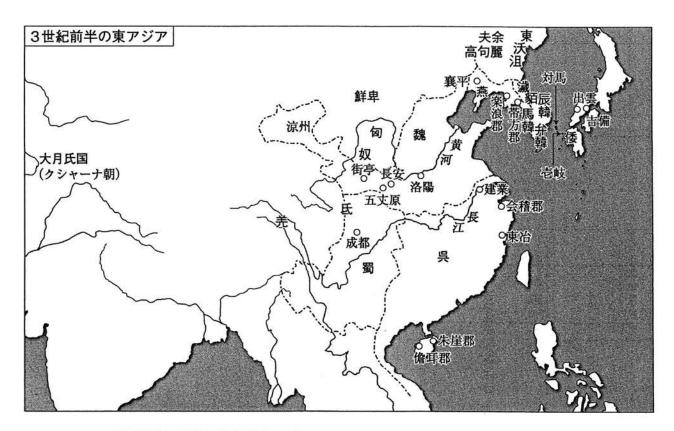
下: 京都大学文学部考古学研究室 (編) 1989『椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡』京都大学文学 部

7頁上・中右・中左: 石川日出志 2000「農耕文化の歩み」『長野市誌 歴史編 原始・古代・中世』 長野市

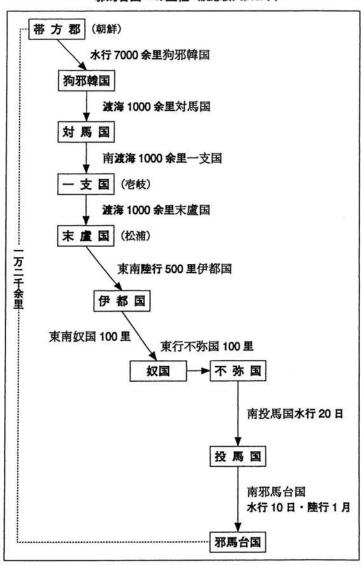
下: 石川日出志 2001 「東日本の環濠集落」 『弥生時代の集落』 学生社

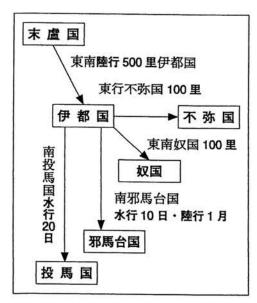
8頁: 木島平村教育委員会(編・発行)2002『根塚遺跡―墳丘墓とその出土品を中心にして―』

9頁: 小山岳夫・森泉かよ子・冨沢一明・高久健二・石川日出志 2014 『佐久考古通信』No.113 特集: 北一本柳遺跡の韓半島南部産の板状鉄斧をめぐって、佐久考古学会



邪馬台国への里程 (魏志倭人伝より)





榎一雄の放射説

渡邉義浩 魏志倭人伝の謎を解く中公新書 2164

2012年 5 月25日発行

# 『三国志・魏志』巻三〇 東夷伝・倭人(『魏志』倭人伝)

あり、今、使訳通ずる所三十国。(倭人は帯方の東南大海の中にあり、山島に依りて国邑をなす。旧百余国。漢の時朝見する者(倭人)は帯方の東南大海の中にあり、山島に依りて国邑をなす。日

那より倭に至るには、海岸に循って水行し、韓国を歴て、悖ば南し悖ば東し、その北岸狗邪郎より倭に至るには、海岸に循って水行し、韓国を歴て、悖ば南し悖は東し、その北岸狗邪郎より倭に至るには、海岸に循って水行し、韓国を歴で、「は南しばは東り、一大国に至る。「ない、「大阪」で東奴母離という。 方三百里ばかり。 竹木・叢林多く、三千ばかりの家あり。やや田地あり、田を耕せども海を渡る千余里、名づけて瀚海という。 一大国に至る。官をまた卑狗といい、副を卑奴母離という。 方三百里ばかり。 竹木・叢林多く、三千ばかりの家あり。やや田地あり、田を耕せども海を渡る千余里、対馬国に至る。その大官を卑狗といい、副を韓国に到る七千余里。始めて一海を渡る千余里、対馬国に至る。その大官を卑狗といい、副を韓国に到る七千余里。始めて一海を渡る千余里、対馬国に至る。その大官を卑狗といい、副を韓国に到る七千余里。始めて一海を渡る千余里、対馬国に至る。その大官を卑狗といい、副を神がない。

奴母離という。千余家あり。

「はた、水深浅となく、皆沈没してこれを取る。東南陸行五百里の日本の人で魚鰒を捕え、水深浅となく、皆沈没してこれを取る。東南陸行五百里の日本では、伊都国に到る。官を爾支といい、副を泄謨觚・柄渠觚という。千余戸あり。世々王あら、皆女王国に統属す。郡使の往来常に駐まる所なり。東南奴国に至る百里。官を兕馬觚とにして、伊都国に到る。官を爾支といい、副を泄謨觚・柄渠觚という。千余戸あり。世々王あら、一余戸あり。世々王あり、山海に深らて居る。草木茂盛し、行また一海を渡る千余里、末盧国に至る。四千余戸あり。山海に深らて居る。草木茂盛し、行また一海を渡る千余里、末盧国に至る。四千余戸あり。山海に深らて居る。草木茂盛し、行また一海を渡る千余里、末盧国に至る。四千余戸あり。山海に深らて居る。草木茂盛し、行また一海を渡る千余里、末

は得て略載すべきも、その余の旁国は遠絶にして得て詳かにすべからず。次を弥馬獲支といい、次を奴佳鞮という。七万余戸ばかり。女王国より以北、その戸数・道里邪馬壱国に至る、女王の都する所、水行十日陸行一月。官に伊支馬あり、次を弥馬升といい、南、投馬国に至る水行二十日。官を弥弥といい、副を弥弥那利という。五万余戸ばかり。南、

国あり。これ女王の境界の尽くる所なり。 (1) 次に対国あり、次に肩奴国あり、次に奴に邪馬国あり、次に軽奴国あり、次に巴利国あり、次に為吾国あり、次に鬼奴国あり、次に死以次に呼邑国あり、次に華奴蘇奴国あり、次に鬼国あり、次に為吾国あり、次に鬼奴国あり、次にが以国あり、次にが成国あり、次にが以国あり、次にが以国あり、次にが以国あり、次にが以国あり、次に所属国あり、次に己百支国あり、次に伊邪国あり、次に都〔郡〕支国あり、次に弥奴国あ次に斯馬国あり、次に己百支国あり、次に伊邪国あり、次に都〔郡〕支国あり、次に弥奴国あ

王国に至る万二千余里。 その官に狗古智卑狗あり。女王に属せず。郡より女その南に狗奴国あり、男子を王となす。その官に狗古智卑狗あり。女王に属せず。郡より女

差錯するを得ず。 、文書・賜遺の物を伝送して女王に詣らしめ、 はび郡の倭国に使するや、皆津に臨みて捜露し、文書・賜遺の物を伝送して女王に詣らしめ、 国に治す。国中において刺史の如きあり。王、使を遺わして京都・帯方郡・諸韓国に詣り、お 女王国より以北には、特に一大率を置き、諸国を検察せしむ。諸国これを畏憚す。常に伊都

> 宮室・楼観・城柵、厳かに設け、常に人あり、兵を持して守衛す。 中に長大なるも、夫婿なく、男弟あり、佐けて国を治む。王となりしより以来、見るある者年に長大なるも、夫婿なく、男弟あり、佐けて国を治む。王となりしより以来、見るある者年、乃ち共に一女子を立てて王となす。名づけて卑弥呼という。鬼道に事え、能く衆を惑わす。年の国、本また男子を以て王となし、住まること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐すること歴

む。太守劉夏、吏を遣わし、将って送りて京都に詣らしむ。景初二年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣わし郡に詣り、天子に詣りて朝献せんことを求(略)

その年十二月、詔書して倭の女王に報じていわく、「親魏倭王卑弥呼に制詔す。帯方の太守に付し仮授せしむ。汝、それ種人を絞撫し、勉めて孝順をなせ。汝が来使難升米・牛利、の太守に付し仮授せしむ。汝、それ種人を絞撫し、勉めて孝順をなせ。汝が来使難升米・牛利、恵きを渉り、道路勤労す。今、難升米を以て率善中郎将となし、牛利を率善校尉となし、銀印書綬を仮し、引見労賜し遣わし還す。今、絳地交竜錦五匹・絳地續聚顯十張・蒨絳五十匹・紺青石十匹・金八両・五尺刀二口・銅鏡百枚・真珠・鉛丹各、五十斤を賜い、皆装封して帯方の太守に付し仮授せしむ。汝、それ種人を絞撫し、勉めて孝順をなせ。汝が来使難升米・牛利、恵きを渉り、道路勤労す。今、難升米を以て率善中郎将となし、生利を率善校尉となし、銀印書紀を仮し、引見労賜し遣わし還す。今、絳地交竜錦五匹・絳地續聚顯十張・蒨絳五十匹・紺青石十匹・金八両・五尺刀二口・銅鏡百枚・真珠・鉛丹各、五十斤を賜い、皆装封して帯升中利に付す。還り到らば録受し、悉く以て汝が国中の人に示し、国家汝を哀れむを知らしむべし。故に鄭重に汝に好物を賜うなり」と。

2

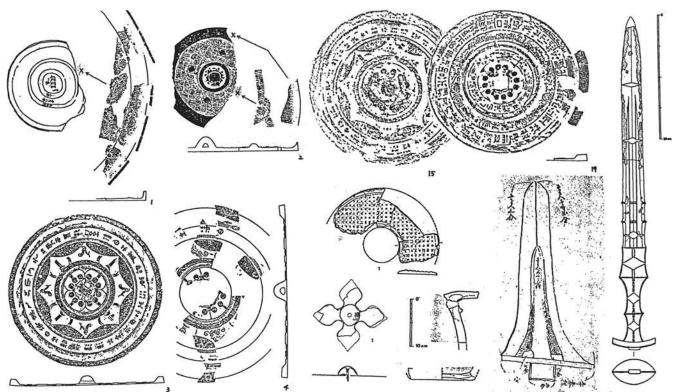
恩を答謝す。 拝仮し、ならびに詔を齎し、金帛・錦罽・刀・鏡・采物を賜う。倭王、使に因って上表し、詔拝仮し、ならびに詔を齎し、金帛・錦罽・刀・鏡・采物を賜う。倭王、使に因って上表し、詔書・印綬を奉じて、倭国に詣り、倭王に正始元年、太守弓遵、建中校尉椛・儁・等を遣わし、詔書・印綬を奉じて、倭国に詣り、倭王に

帛布・丹・木貅・短弓矢を上献す。掖邪狗等、率善中郎将の印綬を壱拝す。その四年、倭王、また使大夫伊声耆・掖邪狗等八人を遭わし、生口・倭錦・絳青縑・緜衣・その四年、倭王、また使大夫伊声耆・掖邪狗等八人を遭わし、生口・倭錦・絳青縑・緜衣・

その六年、詔して倭の難升米に黄幢を賜い、郡に付して仮授せしむ。

詔書・黄幢を齎し、難升米に拝仮せしめ、檄を為りてこれを告喩す。 [の]載斯烏越等を遣わして郡に詣り、相攻撃する状を説く。塞曹掾史張政等を遣わし、因っての]載斯烏越等を遣わして郡に詣り、相攻撃する状を説く。塞曹掾史張政等を遣わし、因ってその八年、太守王頎官に到る。倭の女王卑弥呼、狗奴国の男王卑弥弓呼と素より和せず。倭

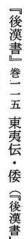
珠五千孔・青大勾珠二枚・異文雑錦二十匹を貢す。 株五千孔・青大勾珠二枚・異文雑錦二十匹を貢す。 思中服せず。更、相誅殺し、当時千余人を殺す。また卑弥呼の宗女壱与年十三なるを立ても、国中服せず。更、相誅殺し、当時千余人を殺す。また卑弥呼の宗女壱与年十三なるを立ても、国中服せず。更、相誅殺し、当時千余人を殺す。また卑弥呼の宗女壱与年十三なるを立ても、国中服せず。大いに家を作る。径百余歩、徇葬する者、奴婢百余人。更に男王を立てし



三雲南小路 K1(中期後半): 前漢鏡 31+・ガラス璧 8・銅矛2・銅戈1・有柄式銅剣1・金銅四葉座金具8・ガラス勾玉3・ガラス管玉 60+ (柳田 1985)



伊都国域の「王墓」





してより、使駅漢に通ずる者、三十許国なり。 倭は韓の東南大海の中にあり、山島に依りて居をなす。凡そ百余国あり。武帝、(\*)

朝鮮を滅ぼ

国、皆王を称し、世世統を伝う。その大倭王は、邪馬台国に居る。楽浪郡徼はその国を去る

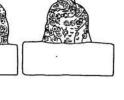
うに印綬を以てす。

建武中元二年、

倭の奴国、奉貢朝賀す。使人自ら大夫と称す。倭国の極南界なり。光武、倭の奴国、奉貢朝賀す。使人自ら大夫と称す。倭国の極南界なり。光武、

安帝の永初元年、 倭の国王帥升等、 生口百六十人を献じ、 請見を願う。

室・楼観・城柵、皆兵を持して守衛し、法俗厳峻なり。 年長じて嫁せず、鬼神の道に事え、能く妖を以て衆を惑わす。ここにおいて、共に立てて王と なす。侍婢千人。見るある者少なし。ただ男子一人あり、 桓・霊の間、倭国大いに乱れ、更、相攻伐し、歴年主なし。一女子あり、名を卑弥呼という。 飲食を給し、辞語を伝え、居処・宮

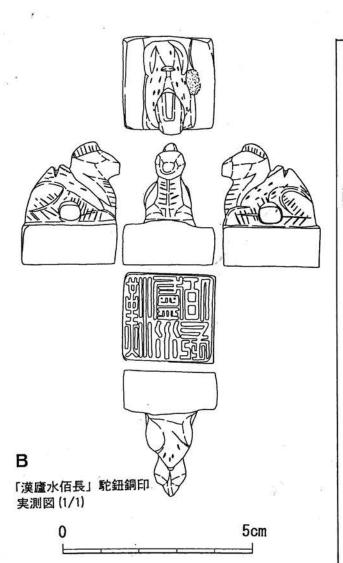


金印「漢委奴国王」実測図(1/1)





左右前後に肢形が残る (石川 2014/写真:鈴木 2010)

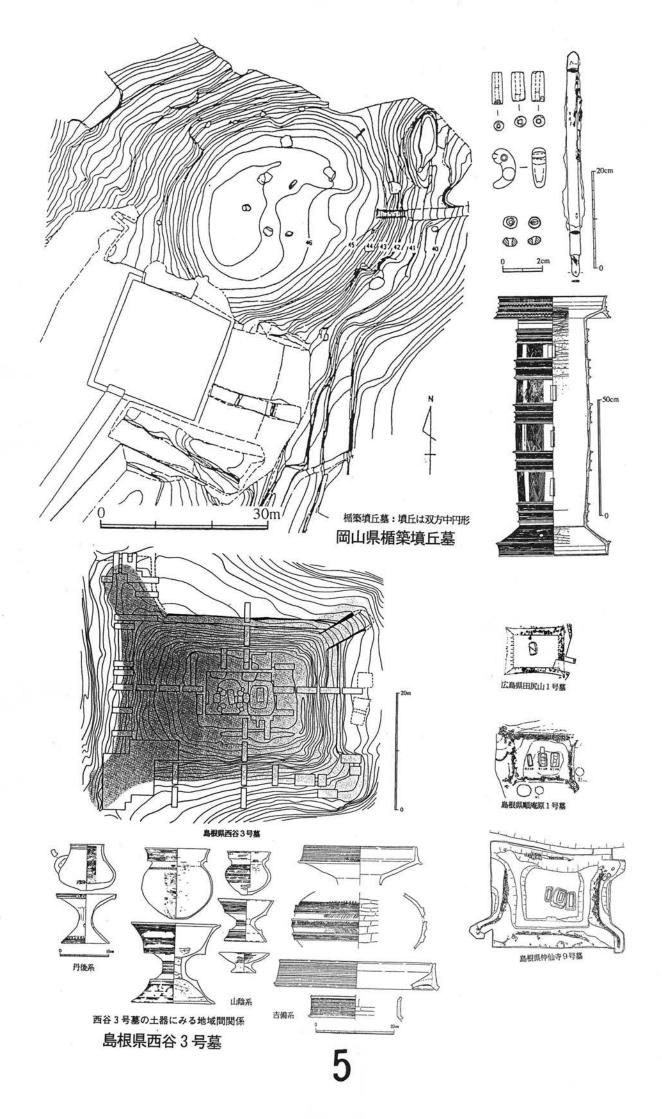


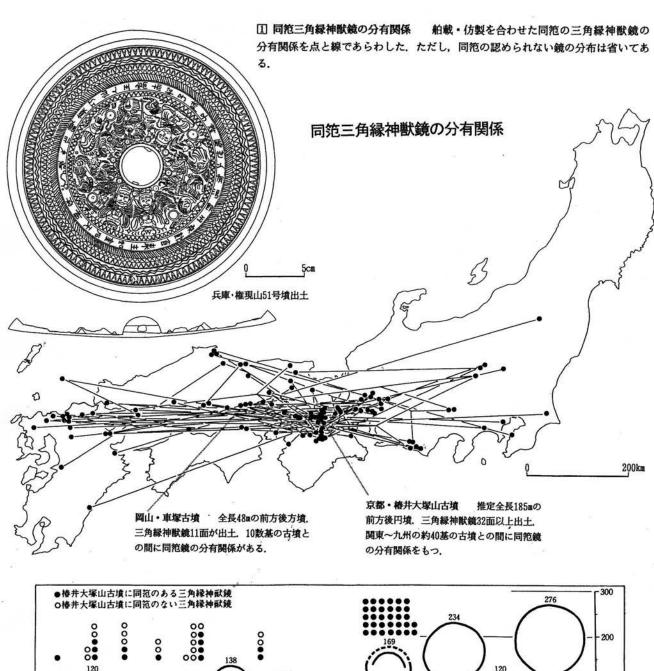
新訂 魏志倭人伝 他三篇 一中国正史日本伝(1)一

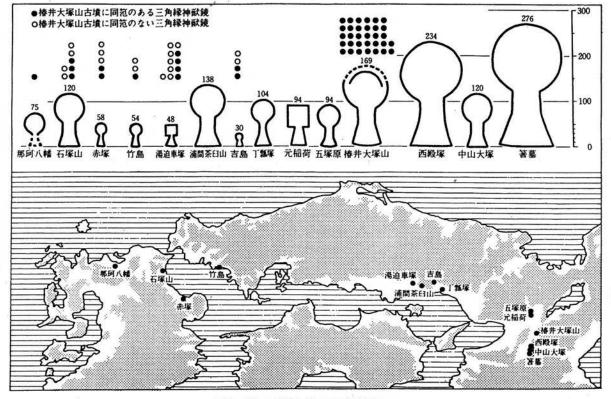
賜

1951年11月5日 1985年5月16日 1999年5月25日 第 1 刷発行 第 43 刷新訂版発行 第 69 刷発行

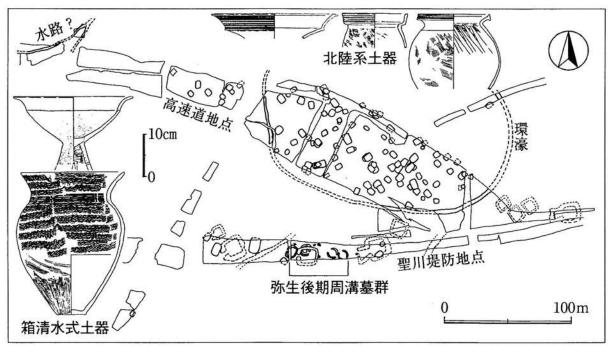
石原道博 大塚信一 発行所 株式会社 岩波書店







最初期の前方後円(方)墳



細線は発掘区域を示す。聖川堤防地点の破線で示した遺構は古墳時代前期の周溝墓。 長野市篠ノ井遺跡群弥生後期集落と出土土器

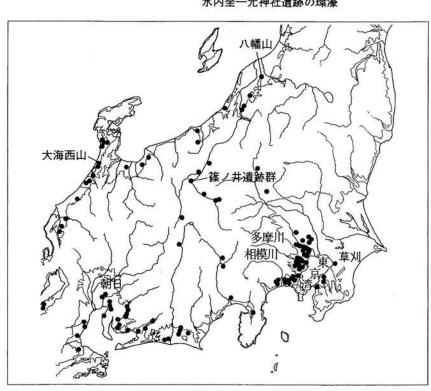
## SDZ-6号墓 S D Z-9 号墓

篠ノ井遺跡群における 前方後方形周溝墓の変遷

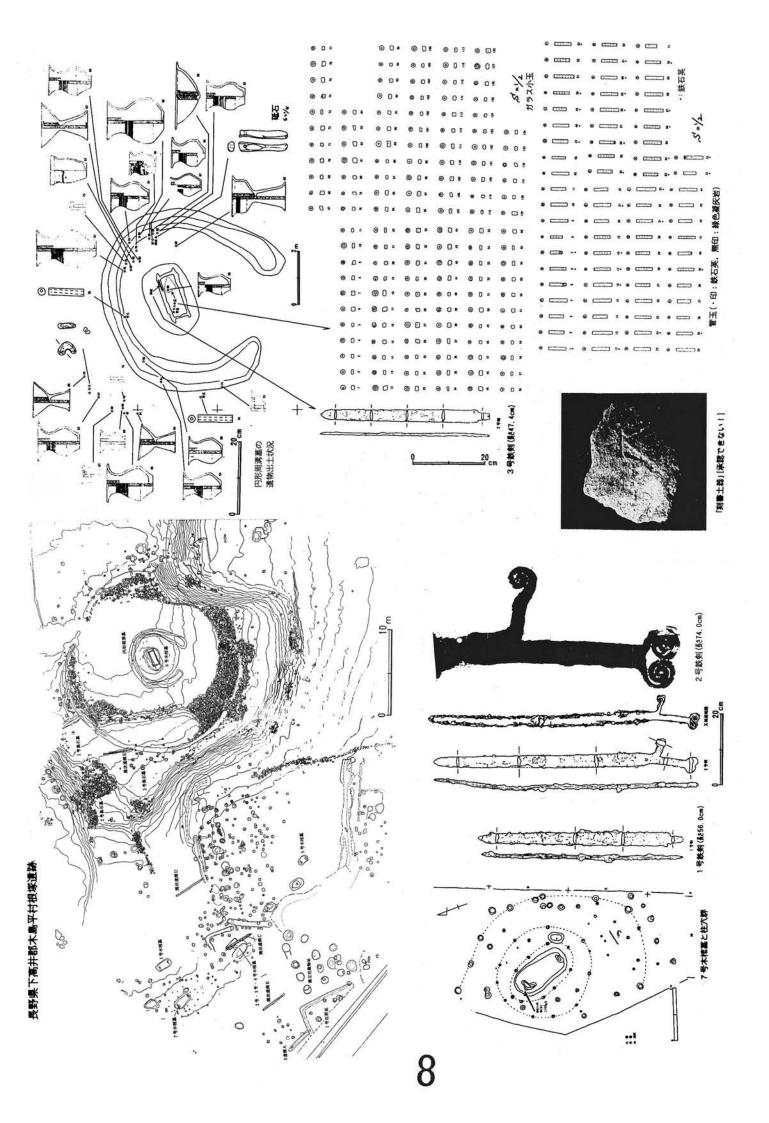
S D Z-3 号墓

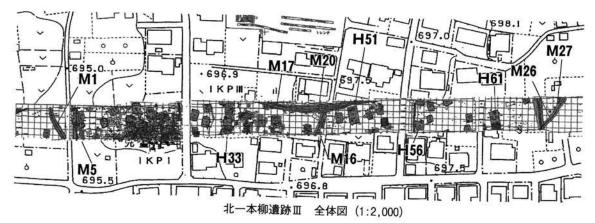


水内坐一元神社遺跡の環濠



東日本環濠集落の分布図② (弥生後期)





鉄斧出土位置 H104 B' H129 171 標高 696.80m (1:80)

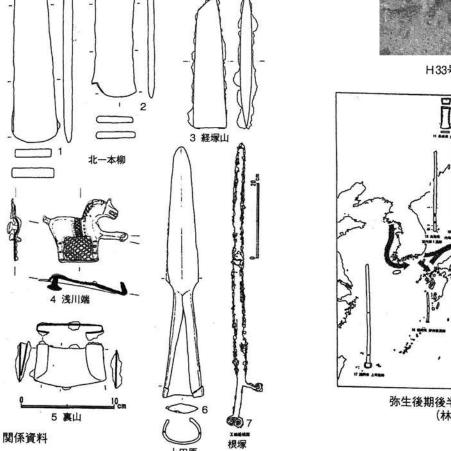
H33号住居



H33号住居 西より

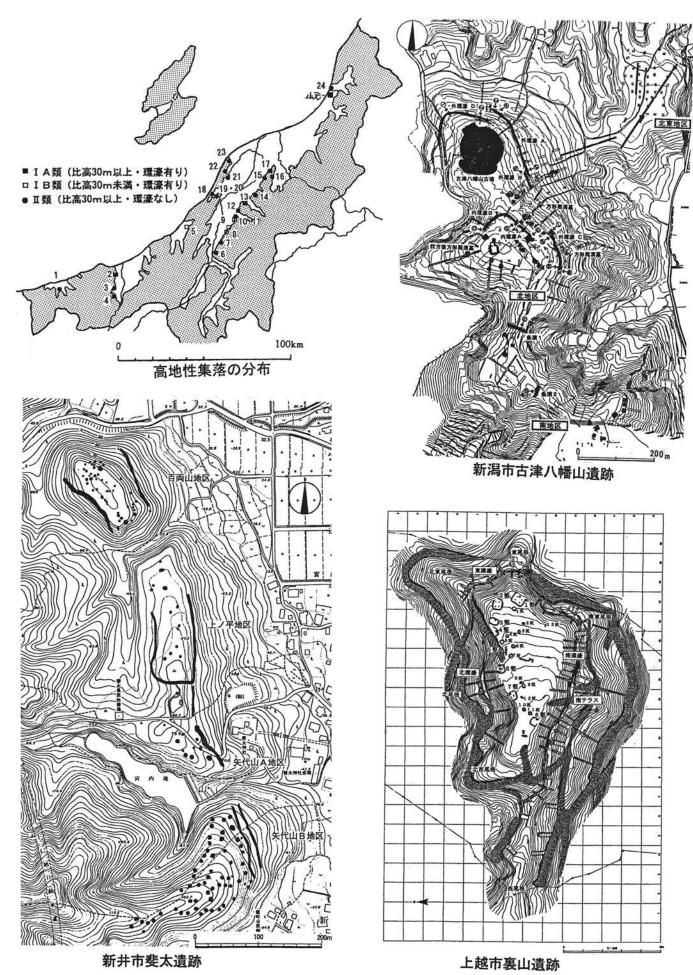


H33号住居 鉄斧出土状況

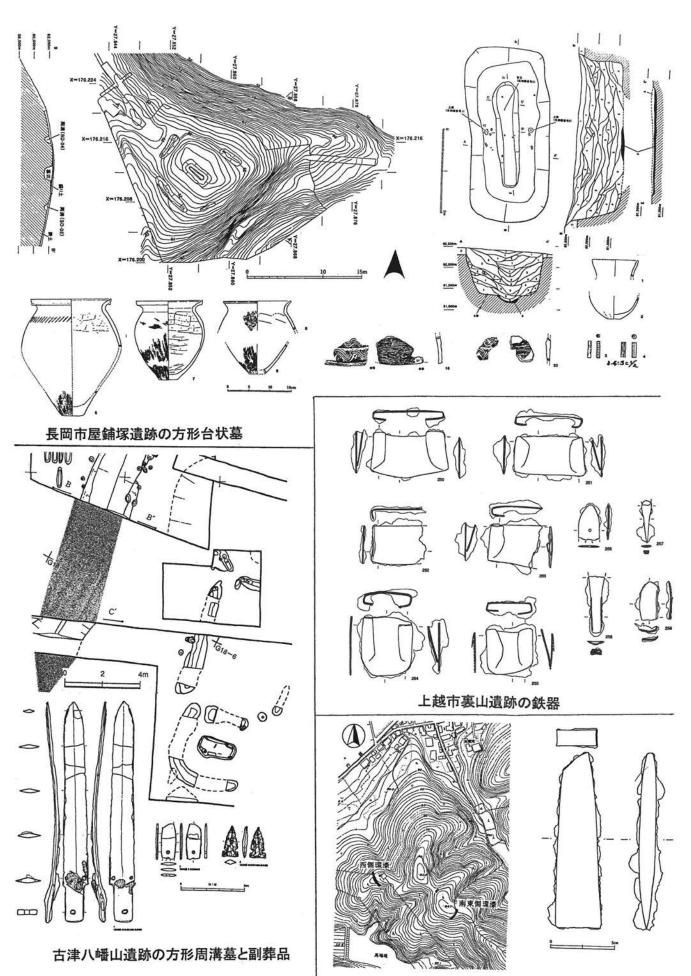


上田原

弥生後期後半・末の主な舶載鉄器 (林2002)



新潟県域の高地性集落(弥生後期中頃~後半:AD2世紀)



西日本や大陸とのつながりを示す墓制と鉄器

三條市経塚遺跡の板状鉄斧